

# 加藤内科広報新聞 2月号



寒さの中にも、春の気配が感じられるようになりました。  
寒さが身にしみる時もありますので体調には十分お気をつけください。

## 新型コロナウイルス感染症について…

新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安

### 1. 相談・受診の前に心がけていただきたいこと

- 発熱等の風邪症状が見られるときは、学校や会社を休み外出を控える。
- 発熱等の風邪症状が見られたら、毎日、体温を測定して記録しておく。

### 2. 帰国者・接触者相談センターに御相談いただく目安

○以下のいずれかに該当する方は、帰国者・接触者相談センターに御相談ください。

- ・風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く方  
(解熱剤を飲み続けなければならない方も同様です。)
- ・強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある方

不安に感じている方  
・発熱が続いている  
・咳が続いている  
・咳込む人が近くにいた など

○なお、以下のような方は重症化しやすいため、この状態が2日程度続く場合には、  
帰国者・接触者相談センターに御相談ください。

- ・高齢者
- ・糖尿病、心不全、呼吸器疾患(COPD等)の基礎疾患がある方や透析を受けている方
- ・免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方

(妊婦の方へ)

念のため、重症化しやすい方と同様に、早めに帰国者・接触者相談センターに御相談ください。

(お子様をお持ちの方へ)

小児については、現時点で重症化しやすいとの報告はなく、新型コロナウイルス感染症については、  
目安どおりの対応をお願いします。

○なお、現時点では新型コロナウイルス感染症以外の病気の方が圧倒的に多い状況であり、インフルエンザ等の心配があるときには、通常と同様に、かかりつけ医等に御相談ください。

### 3. 相談後、医療機関にかかる時のお願い

○帰国者・接触者相談センターから受診を勧められた医療機関を受診してください。連絡無く、直接行くことは控えるようにしてください。複数の医療機関を受診することはお控えください。

○医療機関を受診する際にはマスクを着用するほか、手洗いや咳エチケット(咳やくしゃみをする際に、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえる)の徹底をお願いします。

- ・堺市帰国者・接触者相談センター 072-228-0239 (平日9:00~17:30)
- ・堺市役所時間外窓口 072-233-2800 (上記時間以外の転送先)
- ・厚生労働省 0120-5656553 (9:00~21:00 土曜・日曜・祝日も対応)
- ・大阪府 06-6944-8197 (9:00~18:00 土曜・日曜・祝日も対応)

厚生労働省や大阪府が発信する新しい正確な情報に基づき、対応をしていきましょう。

# 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症とは、新型コロナウイルス“SARS-CoV 2”が原因とされている肺炎のことです。“コロナウイルス”自体は珍しいウイルスではありません。一般的なコロナウイルスはいわゆる風邪の原因となるウイルスのひとつであり、特別なものではなく、一般的な風邪を起こすだけのタイプと肺炎などの重い症状を引き起こすタイプが存在しています。SARS（重症急性呼吸器症候群）や、MERS（中東呼吸器症候群）を引き起こすのもコロナウイルスです。今回発見された新型コロナウイルスは、SARS を起こすタイプに似ていると言われており、つまり症状が重くなるタイプであると考えられます。

どのような経緯で“SARS-CoV 2”が生み出されたのか、ヒトからヒトへ感染することは分かっていますが、どのような感染経路なのか、潜伏期間はどれくらいなのかなど明確なことは分かっていません。

## 原因

コロナウイルスは、ヒトを含めた哺乳類、鳥類などに広く存在するウイルスです。コロナウイルスの特徴として、エンベロープ（ウイルス表面の脂質性の膜）上にコロナ（王冠）のようなタンパク質の突起を持つことが特徴で、1本鎖のRNAウイルスです。コロナウイルスを含めエンベロープを持つウイルスはアルコールで失活するという特徴と、変異を起こしやすいという特徴があります。



現在のところ、感染経路は主に飛沫感染と接触感染（感染者が咳やくしゃみを手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付き、その物を触れたりすることによってウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触って粘膜から感染すること）で、空気感染の可能性は少ないとされています。また、現時点での潜伏期間は1～12.5日（5～6日）日とされており、その間も感染を広げる可能性も示唆されているのが現状です。感染者は14日間の健康状態の観察が推奨されています。

## 症状

新型コロナウイルス関連肺炎では、発熱（37.5℃以上）、のどの痛み、咳、痰、胸部不快感などの一般的な肺炎症状が見られるケースが多いとされていますが、これらの症状がほとんどない感染者も報告されています。一方で、急激に呼吸困難などの症状が現れて死に至るケースも少なくないとのことです。通常の風邪症状から出現するものの、非常に強い倦怠感を訴えるケースが多いともいわれています。また、発熱など症状が長引く傾向にあるとの意見もあります。下痢や吐き気などの消化器症状、頭痛といった一見肺炎とは関係ないような症状が現れることも多いとのことです。このため、診断の遅れにつながり、感染を拡大する可能性もあるとして注意喚起がなされています。

## 治療

現時点で、このウイルスに特に有効な抗ウイルス薬などはなく、対症療法を行います。このため、発熱に対する解熱鎮痛剤、呼吸困難に対する酸素投与や気管挿管、脱水に対する補液などそれぞれの症状を改善することを目的とした治療が行われます。

## 感染予防

まず、石けんやアルコール消毒液などによる手洗いを行ってください。新型コロナウイルスに限らず、全ての感染症予防の基本は手洗いです。咳などの症状がある方は、咳やくしゃみを手でおさえると、その手で触ったドアノブなど周囲のものにウイルスが付着し、ドアノブなどを介して他者に病気をうつす可能性がありますので、咳エチケットを行ってください。特に電車や職場、学校など人が集まるところで行うことが重要です。また、持病がある方などは、上記に加えて、公共交通機関や人混みの多い場所を避けるなど、より一層注意してください。



不必要に怖がりすぎず、できることを確実にいき、落ち着いて対処することが大切です。